

# さいがい きせいしゃ まち かんが 災害で犠牲者ゼロ 街づくり考えた



愛知県幸田町の深溝断層を取材する子ども記者



## 広告特集

## 子ども新聞 プロジェクト 2021

子どもたち自身が取材、編集して新聞にまとめます。「気づき・考え・実行する」大切さを、同じ世代の子どもにも伝え、より多くの子どもたちが新聞を読んで、行動する力を育んでほしいと願っています。

企画：日本赤十字社愛知県支部 朝日新聞社  
制作：朝日新聞社メディアビジネス局  
後援：愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会 愛知県小中学校長会 名古屋市立小中学校長会



朝日新聞



愛知県田原市の津波防災について話を聞いた

東日本大震災で、宮城県名取市の農業法人「耕谷アグリサービス」は、農地76ヘクタールの9割が津波の被害を受けました。当時の代表にリモート取材した子ども記者は、地震・津波のときの体験や、復興の第一歩として塩害に強い綿のタネをまいたときの願い、今も綿の栽培を続けている思いを聞きました。

現地取材では、子ども記者たちが愛知県三河地方の3カ所を訪れました。76年前の三河地震でできた幸田

### 子ども記者 リポート [宮城・愛知]

- 宮城県名取市 耕谷アグリサービス
- 愛知県幸田町 深溝断層
- 愛知県豊川市 豊川市防災センター
- 愛知県田原市 旧堀切小学校

町の深溝断層を見学し、地震のエネルギーの大きさを実感しました。「見て、学んで、備える」を掲げる豊川市防災センターでは、プロジェクトのマップなどを使って楽しく防災のことを勉強しました。南海トラフ地震で津波に襲われる危険性が高い田原市では、児童の犠牲者ゼロを目標に持久走の避難訓練をした小学校の元校長先生、当時の児童やPTA会長らから話を聞きました。「津波避難マウンダー」や「道標プロジェクト」などを田原市が進める津波防災の取り組みを担当者に取材しました。

## ～過去の震災から学んだ教訓を防災・復興につなげよう～



## 僕らの言葉で、未来に伝える

青少年赤十字では、全国の幼稚園、保育園、小中高等学校など学校教育の現場で「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」を実践目標として、子どもたちが自分で「気づき、考え、実行する」力を育てています。学校教育を通じて震災の経験を次世代に伝えていくという理念に共感した企業の皆さまによって、子ども新聞プロジェクトの財源の一部が支えられています。

## 2022年は青少年赤十字100周年

国内最初の少年赤十字団（青少年赤十字の前身）の結成は、1922（大正11）年、滋賀県の守山小学校とされています。来年は青少年赤十字100周年を迎えます。愛知県では現在1,086校が加盟しており、これからもさまざまな活動を通じて赤十字の心を育てていきます。

◀令和3年度青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターの様子



人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

■子ども新聞に関する情報はこちら  
ホームページ [www.aichi.jrc.or.jp/](http://www.aichi.jrc.or.jp/)  
Twitterアカウント [twitter.com/aichi\\_jrc](https://twitter.com/aichi_jrc)